

2020年度 こども食堂 報告書

一般社団法人

ヒューマンワークアソシエーション

くらしサポートセンター守口

2020年4月1日～2021年3月31日

目次

① 守口市 こども食堂の概要

・

② 2020年度の実施状況

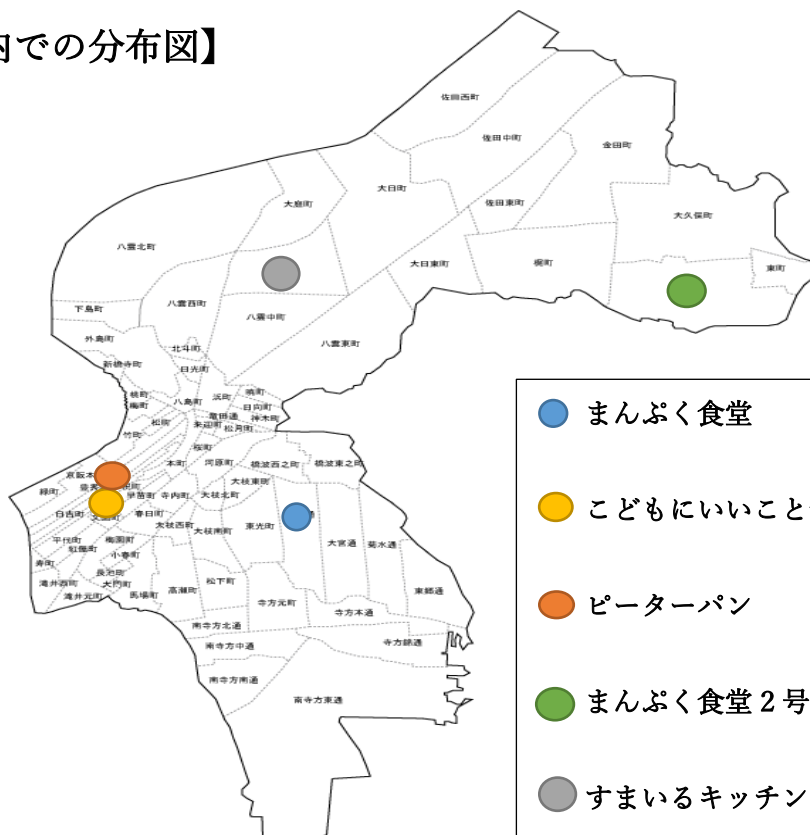
・

③ こども食堂ネットワークについて

① 守口市こども食堂の概要

現在守口市内で5か所のこども食堂を運営しています。うち一店舗がはしば商店街内で毎週開催、ほか4店舗が月に1回開催となっています。東部コミュニティセンター内、北部コミュニティセンター内、中部コミュニティセンター内、土居商店街内での運営となっています。北部コミュニティセンターでのこども食堂「すまいるキッチン」は2020年度に新しく開設したこども食堂となっています。

【守口市内での分布図】



② 2020 年度の実施状況

食堂名	まんぷく食堂	まんぷく食堂 2号	ピーターパン	こどもに いいこと食堂	すまいる キッチン	合計
2019 年度 実施回数	36 回	11 回	9 回	9 回		65 回
2019 年度 延べ人数	1632 人	432 人	279 人	227 人		2570 人
2020 年度 実施回数	41 回	9 回	5 回	7 回	2 回	64 回
2020 年度 延べ人数	5538 人	422 人	185 人	96 人	400 人	6641 人

【コロナ禍のこども食堂の変化】

コロナウイルスの影響で、各こども食堂の実施回数は大幅に減少しています。緊急事態宣言の発令や、近隣の学校との協議の結果、休業となっているケースがほとんどです。しかし、コロナ禍で、以前までの食堂形式から、お弁当のテイクアウト形式に変更したところ、近隣住民の方々の利用が増加しました。こども食堂はこどもしか利用できないといった認識が徐々に薄くなり、商店街内または近隣住民の方々の利用増加につながっています。この結果、地域との関わりが強くなり、こども達も大人とのつながりを持つことができました。

【参考】

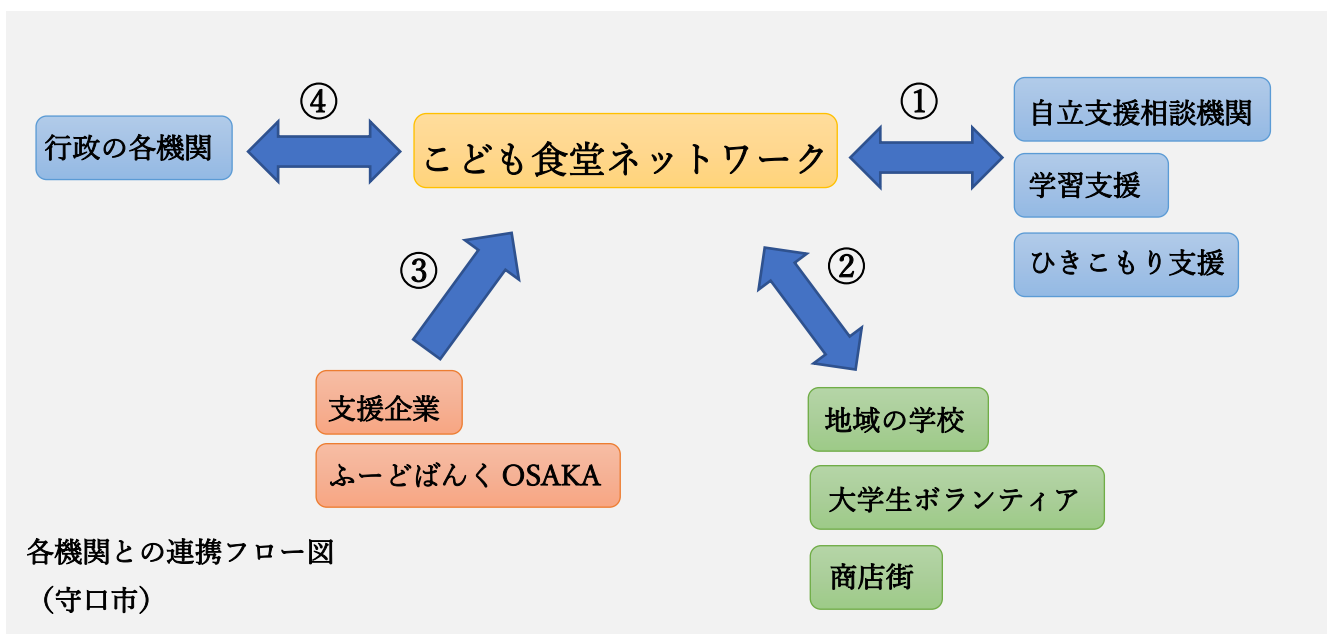


③ こども食堂ネットワークについて

【こども食堂ネットワーク】

こども食堂ネットワークでは各機関と連携するための入り口としての役割も果たしています。地域の問題をすくい上げる場としての機能があります。下記フロー図にて①～④について説明いたします。

- ① こども食堂から発見された発達障害等の課題を抱える子どもたちを学習支援やひきこもり支援などの個別支援に誘導するケース。相対として、自立相談支援機関に相談に来た方をこども食堂に誘導し、地域との関わりを作るとともに、食費等の生活に必要な支出を軽減させる。
- ② 地域振興行事への参加・大学生の社会経験を積む場の創出。地域の学校の校長先生からの情報の提供。それを受け、①の矢印に循環化させる。商店街の地域振興イベントを共催し、他市との意見交流を実施し、アウトプットする役割。
- ③ 支援企業からの資金援助（助成金制度の活用）。ふーどばんく OSAKA からの食料のリサイクル活用。SDG s の活用。支援企業からは、例としてダイワハウス工業株式会社さまより資金の提供だけでなく、フードドライブ活動のご協力いただいたり、ワークショップの開催や職場実習体験の機会をいただいたりしています。その他の面では Coco 壱番屋さまからこども食堂とのコラボカレーの販売などを協力していただきました。
- ④ 行政機関との制度利用。これに関しては①の矢印と共同で行うケースが多いですが、①でのインフォーマルな支援と行政の制度等を活用したフォーマルな支援を行うことで支援の漏れをなくすことを目的としています。最近では、行政こども担当部署からもこども食堂への誘導依頼等を受けることが多くなりました。
- ⑤



※上記フロー図は①～④の矢印単体のみではなく複合的な効果も見込まれています。そのことからこども食堂ネットワークとして総称しています。